



Dr.ハートの 診察室

「最近、右足の
ふくらはぎがしびれて、
歩くと痛いんです。少し休むと
治まりますが、また歩き出すと
痛くなります。ときどき、
じっとしていても痛みます。
先生、これは
何の**病気**でしょうか？」



?! 整形外科クリニックのご紹介で、
足の痛みを訴える60代の男性患者さまが、
馬場記念病院の循環器科の外来を受診しました。
担当したDr.ハートは、患者さまの話から、
ある病気の可能性を考えました。(続きは中面をご覧ください)



自分の家族に接する気持ちで、
患者さまの検査に
携わっています。

検査部(生理機能検査)
臨床検査技師
山崎 功次

Q 循環器科のチーム医療に
ついて教えてください。

A 私たち臨床検査技師は、カテーテル
検査・治療などのメンバーとして
参加し、血圧や心電図の管理を担当
します。また、血管が完全に詰まっていて、
カテーテルの進む道が見えない場合、
私たちがプローブという超音波発信器を
患者さまの体にあて、血管の画像を映し
出して、カテーテルの道筋をガイドする
こともあります。先生方は、私たちが意見
を言いやすい雰囲気でご接して下さるので、
とても仕事がしやすいですし、非常に
ありがたいと思っています。

Q これからの目標は
どんなことですか。

A 現在は、スタッフの指導をする立場
ですが、自分自身も、もっとスキル
アップをしていきたいですね。すでに、
循環器領域の超音波検査士の資格を
取得していますが、新たに「血管診療技師
(CVT)」に挑戦したいと考えています。
CVTは、動脈硬化などの治療や検査に
関する知識と技術を持つ、血管診療の
スペシャリストです。講習会参加、課題
の提出など、なんとか勉強時間を確保
して資格を取得し、当院の血管診療に
一層貢献していきたいと思っています。

Q 生理機能検査とは、
どんな検査ですか。

A 生理機能検査は、患者さまに直に
接して行う検査です。具体的には、
心電図検査、呼吸機能検査、超音波
(エコー)検査、脳波検査などがあります。
循環器科からのオーダーで多いのは、
心電図や心臓の超音波検査、そして、
足の動脈硬化を調べるABI検査も数多
く行っています。そこで下肢閉塞性動脈
硬化症の疑いがあれば、下肢血管エコー
検査を行います。

Q 検査の際、患者さまに配慮
しているのはどんなことですか。

A 基本的には、自分の家族を検査す
るつもりで接しています。自分の親、
子どもだったら、どういうふうに関
係するかをいつも考えますね。たとえ
ば、ベッドに寝ていただくときも、
丁寧に介助するように努めています。
また、超音波検査などでは、胸や足
などに触れながら検査するため、患
者さまのプライバシーへの配慮も大
切にしています。

Q 下肢血管エコー検査では、
どんなことがわかりますか。

A 左右の足へ血液を送る血管の太さ、
動脈・静脈の詰まり具合、血液の
流れなどがわかります。お腹から両足
の足首まで幅広い範囲をまんべんなく
観察しますが、動脈瘤の有無や、カテ
ーテル穿刺(せんし)部周囲の動脈壁
の硬さにも注意して観察していきます。
カテーテルを通していく道筋に動脈
瘤があると、治療のリスクが高ま
ります。また、カテーテルを挿入す
る場所の動脈硬化が強ければ、穿刺
が困難となりますし、治療後の出
血リスクも高まります。治療対象
となる病変を探し出すことはもちろ
んですが、治療時に必要となる情
報はなるべく提供していくよう心が
けています。



※写真はエコー検査中のイメージです。

患者さまへ

我々循環器科では、お一人おひとりに精一杯の思いやり医療を行いたいと考えています。外来診療では、お待たせすることもあるかと思
います。しかし、診療においては、どの医療機関よりも、患者さま
の不安や苦痛を取り除けるよう、一層努力していきます。患者さまに
ご満足いただけるよう、日々の勉強を怠らず、質の高い医療を提供
していく所存ですので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



足が痛くて歩きづらくなったのは、足の動脈硬化(閉塞性動脈硬化症)が原因でした。

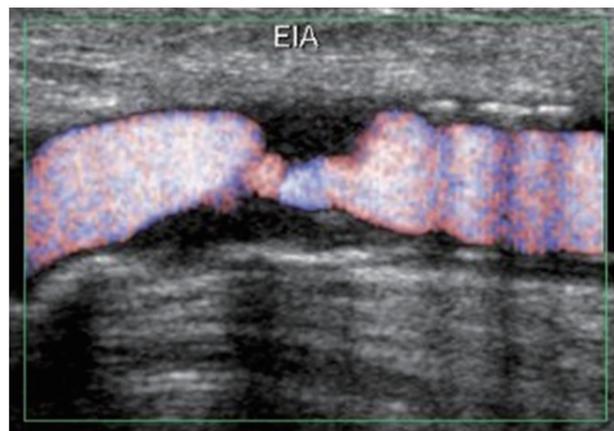
01 まずは、体に負担の少ない血圧検査を実施。

Dr.ハートは、患者さまの訴えから「間歇性跛行(かんけつせいはこう)」という歩行障害を考えました。この障害は、少し歩くと、足が痛んで歩けなくなり、少し休むと治まるものの、また歩き続けると再び痛みだすもので、足の血流が悪くなっていると起こります。そこで、ABI検査(足関節上腕血圧比)を行い、上腕と足首の血圧を測定して、比較しました。正常であれば、足首の血圧の方が若干高いのですが、この患者さまは足首の血圧が低い数値になりました。

02 下肢血管エコー検査で血液の詰まりをチェック。

次に、下肢血管エコー検査を行いました。これは検査する部位にゼリーを塗り、プローブという超音波発信器を軽く押しあてていくもの。当院ではお腹から足首まで広い範囲を見て、両足全体の動脈・静脈の流れを確認し、足の痛みの原因が動脈・静脈の詰まりによるものかどうか調べていきます。

この検査で画像を見ると、患者さまは右足の動脈の数カ所が、狭くなったり詰まったりしていました。



下肢血管エコー検査

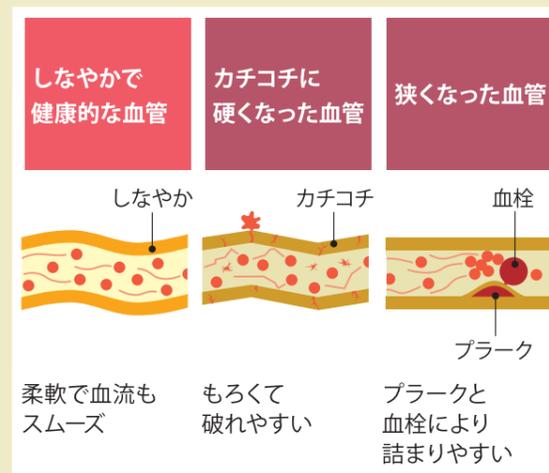
03 造影CT検査で、下肢動脈の様子を詳しく検査。

患者さまの病気は、当初の診立て通り、足の動脈硬化「閉塞性動脈硬化症」でした。では、どんな治療法が適しているのでしょうか。動脈の詰まりの程度や詰まっている場所を特定するために、造影剤を点滴しながら撮影するCT検査を実施しました。その結果、右足の太腿動脈が詰まっていて、その先の血流が途絶えていることがわかりました。

C O L U M N

閉塞性動脈硬化症とは

閉塞性動脈硬化症は、加齢や生活習慣の乱れにより、足の血管が硬くなり、血管の内側にコレステロールなどが溜まり、血管が細くなったり、詰まったりする病気です。血液の流れが悪くなると、足に栄養や酸素が十分に送れなくなるため、歩行時に足がしびれたり、痛み、冷たさを感じるようになります。症状が進行すると、動いていなくても足が痛むようになり、QOL(生活の質)が大きく低下します。



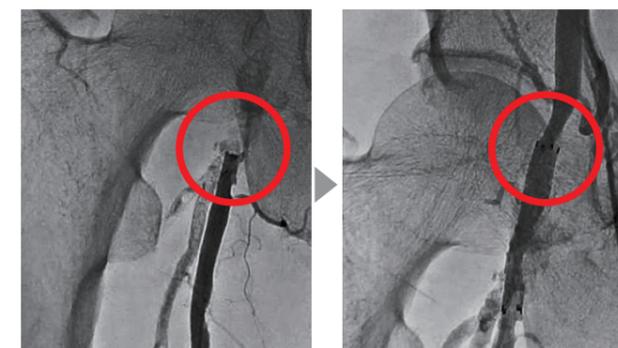
健康な血管と2種類の動脈硬化

04 カテーテルによる血管内治療を選択。

これらの検査結果から、患者さまに適した治療法を検討しました。一般的に、症状が軽い場合は薬物療法と運動療法になります。しかし、この方は下肢の動脈が完全閉塞している状態だったので、カテーテル(細長い管)を用いて血流を再開する治療が適切と判断しました。最近では、患者さまの体への負担が少なく、局所麻酔だけで治療できる方法として、この血管内治療が選択されるケースが増えていて、当科でも積極的に採用しています(ただし、非常に重症な場合は、心臓血管外科でのバイパス手術が必要となります)。

05 カテーテルで動脈の詰まりを解消。

後日、患者さまに入院していただき、カテーテル検査・治療を行いました。足のつけ根の動脈からカテーテルを挿入し、足の血管に造影剤を入れ、エックス線撮影をして、詰まっている部位を確定します。その詰まっているところで風船を膨らませて血管を広げ、ステント(金網を円筒にした人工血管)を留置しました。こうすることで、血管の詰まりが解消し、その先の血行が再開されたことを確認できました。治療時間は2時間ほど。術後の経過も良好でした。



治療前(血管が閉塞している)

治療後(ステントにより血流再開)



造影CT検査での血管評価。カテーテル検査と同様の精度で評価できる。

06 入院している間に運動療法を指導。

閉塞性動脈硬化症の治療には、運動療法が大切です。そこで、入院中に理学療法士による運動療法を行い、ご自宅でもできる運動メニューを学んでいただきました。現在は、外来で薬物療法や生活指導を続けています。この患者さまはヘビースモーカーでしたが、今はタバコも止め、「毎朝、欠かさず30分散歩している」とのこと。顔色も良く、すっかり元気を取り戻していらっしゃいます。

山下先生からメッセージ

閉塞性動脈硬化症は、足の血流が悪くなる病気ですが、動脈硬化そのものは、足だけでなく、全身の血管に起こる可能性があります。特に足の動脈硬化があるということは、心臓や脳の血管の動脈硬化も疑われます。そのため、当院では、閉塞性動脈硬化症の患者さまには、心臓、脳の血管も一度、検査することをおすすめしています。また、動脈硬化の原因の多くは生活習慣病です。偏った食事や運動不足、飲酒、喫煙の習慣を改善し、いつまでも若々しい血管を保ってほしいと思います。



循環器科 部長 山下 啓